

戦略的情報通信研究開発推進事業 独創的な人向け特別枠「異能vation」プログラム ロジックモデル

現状把握 ・課題設定	イン プット (資源)	アクティ ティ (活動)	アウト プット (活動目標 ・実績)	アウトカム (成果目標・実績)	インパクト (国民・社会へ の影響)
<p>・米国ICT企業GAFAMの時価総額は約560兆円。東京証券取引所1部上場企業約2170社の合計550兆円を上回る。(2020年)</p> <p>・我が国には、協調性がある・信頼性を重視し慎重に推進するなどの考えと、「出る杭は打たれる」「失敗を恐れる」などの文化が存在し、破壊的ICTイノベーションが生まれにくい状況。</p> <p>・失敗を恐れずに挑戦する雰囲気や国が率先して醸成していくことが重要。</p>	<p>総務省 予算 300 百万円 (R2)</p>	<p>① ・ポストコロナ時代における世界的な産業・社会変革が起きる中、スタートアップ前の優れたアイデアを発掘し、地球規模の新たな価値を創造する大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな破壊的ICTイノベーションへの挑戦を支援(最長1年、最大300万円) ・卒業評価を通過した者を異能βとして認定。</p> <p><応募件数> H26: 710件 R2: 18,154件 (26倍増加)</p> <p><応募件数累計> 55,000件 (H26-R2)</p> <p>② 官・民・地域・グローバル連携を推進。</p>	<p>①KPI進捗 応募倍率10倍以上※一般に政府系R&Dは3-5倍程度 <達成状況> H26: 71倍 R2: 166倍</p> <p>②KPI効果 ・官・民・地域・グローバル各々において参加する団体がそれぞれ1以上。 <達成状況> 官1、民182、地域51、グローバル2(R2)。</p> <p>・全応募数のうち、社会展開・実装を目指す課題の割合5割以上。 <達成状況> H26: 32.5% R2: 91.2%</p>	<p>【短期】 ①効果的な評価・支援システムの確立 ・応募要件は「個別連絡先が存在する者」。 ・評価は年齢制限なし、過去の経歴不問、国籍不問。スーパーバイザーの経験に基づく直感により、何もなかったところゼロからイチを創造する挑戦者を評価。 H26-R2: 挑戦者累計7,685人を評価</p> <p>②官・民・地域・グローバル連携する異能vationネットワークの構築。 ・協力協賛企業数はH26の67団体からR2は187団体と3倍に増加。 ・民間の自主的な取組であるちょっとした変わったアイデア等を協力協賛企業が表彰するアワード賞の設置。R2はノミネート223件、受賞33件。</p> <p>【中期】 ① ・挑戦後の評価を経て卒業生(異能β)を69名選出。卒業後に起業する割合7割(プロの研究者を除く)。合計62億円の資金調達(~R2)。 ・協力協賛企業が自ら設定する課題に失敗をおそれず挑戦する課題設定型コンテストを設置。企業が拠出する賞金総額 約1億2千万円(R2)。</p> <p>② ・これらの取組がトリガーとなり、民間の自主的な取組が広がりを見せ、異能vationネットワーク拠点が53カ所まで拡大。地域毎の取組を推進。また、地域間の連携を推進し自主的にイベント等を開催。 ・ネットワーク拠点などや報道などにより、延べ約652万人以上にリーチ(日本人口の6%以上)。 ・14億円相当の民間負担 ・インドネシアと閣僚級のMOCを締結し、国際的に政府間で認知される水準に。インドネシアの取組は19億円。今後は他のASEANなどにも働きかける予定。</p> <p>【長期】 日本国民の誰もが知るプログラムとなり、 ①②学校や企業内で誰もが「失敗を恐れずに挑戦する」ことが浸透</p>	<p>①②破壊的な地球規模の価値創造を生み出す異色多様な才能の発掘や応募者が挑戦できる環境を整備し、破壊的イノベーション創出のモデルケースを示すことで、我が国発の破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気や醸成。</p> <p>②尖った才能の変わったことへの挑戦を認め褒める社会文化の醸成のため、破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気や醸成する裾野の拡大。</p>